

平成28年度 学校経営計画書及び学校評価計画書

石川県立飯田高等学校

学校長 三嶋 達也

1 教育目標

真理を探究し、高い知性と豊かな心を養い、積極・進取の精神をもった明朗快活で実践力のある誠実な人間を育成する。

2 中長期的目標

(1) 学校の現状

- ① 文武両道を校是として推し進め、教育目標に掲げる人材の育成を目指して教育活動を行っている。
- ② 過疎化・少子化の進展により、生徒が一層多様化している。生徒の多様な意識や能力に応じた学習指導と進路指導が求められている。
- ③ 普通科と総合学科併置の特性を踏まえ、生徒の多様なニーズに応える指導・支援体制の構築が求められている。
- ④ 部活動を通して礼儀や規範意識の向上を図り、ボランティア活動や地域行事への積極参加を通じて、地域に密着した学校作りを推進している。
- ⑤ 地元の中学校と連携を取り、中高接続を意識した英語の学習指導の在り方を追求する取組を進めている。

(2) 生徒に関する中長期的目標

- ① 学びに対する意欲と身構えを自ら整え、キャリア・アップを図り、自分の将来に対して志の持てる基盤を築く。
- ② 基礎・基本となる知識や技能の習得を基に、自らの未来を拓く素地となる思考力・判断力・表現力を身に付ける。
- ③ 礼儀正しく、互いの個性や能力を尊重し合い、故郷に誇りと愛着を持てるグローバルな人材を育成する。

(3) 教職員、学校組織等の望ましい在り方

- ① 各課、学年、教科間の連携を密接に取り、組織体としての教育力を高める。
- ② 教員一人一人が経営参画意識を持って業務を進め、主任層が積極的に指導・助言や提案を行う。
- ③ 学習指導、部活動や学校行事等において生徒と強く係わるとともに、生徒の支援者として自らの総合的指導力を高める。
- ④ 学校公開や外部に対する適切な情報提供を行い、地域の特性を活用した取組を積極的に進める。

3 今年度の重点目標

- (1) 生徒の多様な進路希望を実現するための相応な学力養成
- (2) 生徒の規範意識の向上と生活習慣・学習習慣の定着
- (3) 普通科、総合学科それぞれの特長を活かした教育活動の推進
- (4) 地域の教育力を活かした教育活動を展開し、地域と連携した学校づくりの推進

平成28年度 石川県立飯田高等学校学校評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 生徒の多様な進路希望を実現するための相応な学力養成	① 教員の授業改善と生徒の進路意識の向上を図る。	各教科 各学年 進路指導課	昨年度は、7月進研模試と1月進研模試を比較。1年生は英語9→12、数学10→31、国語12→17と3教科すべてで偏差値60以上人数が増加。2年生は英語4→11、数学13→8、国語14→17と2教科で増加した。	【成果指標】 1・2年の1月模試で、英数国総合の偏差値60以上が10%、55以上が20%、50以上が50%を目指す。 (学年毎)	各学年で10%、20%、50%の基準を A:すべて達成した B:2つ達成した C:1つ達成した D:すべて達成できなかった	C以下の場合には学年会、教科で指導体制を再検討する。	
	② 進路実現可能な学力を身につけるために自立的学習習慣を定着させる。	各学年 進路指導課	学年+1時間の学習時間を推奨している。1,2年ともに学習時間増加への取組意志は高い。	【成果指標】 予習・復習を習慣化させ、家庭学習を充実させる。 (学年毎)	アンケートで予習復習を行っているかを調査し、肯定的な回答が、 A:70%以上 B:50%以上 C:30%以上 D:30%未満	C以下の場合には学年会・教科で指導体制を再検討する	隔月1回、家庭学習時間の調査を行う。
	③ 幅広い知識と、情報処理能力を身につけ、公務員試験に対応できる力を育成する。	各教科 進路指導課	自然科学・判断推理・数的推理の分野で弱点を持つ生徒が多く見られるので、これらの弱点を中心に、学力の底上げを図る必要がある。	【成果指標】 公務員模擬試験において総合判定でBランク以上の生徒の割合を指標とする。	公務員試験直前の模擬試験においてBランク以上の生徒の割合が A:80%以上 B:60%以上 C:40%以上 D:40%未満	C以下の場合には進路及び、各教科で取組を再検討する	
	④ いしかわ探究スキル育成プロジェクトでの研究・実践の成果を学校全体に還元し教育力を高める。	各教科 教務課 進路指導課	互見授業の普及が充分とはいえ、必要性は実感できても実践につなげる意識がまだまだ低い。	【成果指標】 教員の授業力向上を目指す取り組みの効果を、生徒による授業評価で評価する。	生徒による授業評価で、教員は授業において深く思考させる場を増やし、学習意欲を高める工夫をしているとの回答が A:95%以上 B:90%以上 C:80%以上 D:80%未満	C以下の場合には各教科で指導法を再検討する。	
	⑤ 学力スタンダードを策定することにより、AL等探究的な学習活動を取り入れるための教員の指導スキルの向上を図る。	教務課	教員間で探究的な学習活動を取り入れた授業に対する意識は確実に高まっている。昨年度は、76%の教員が、何らかの形で探究的な活動を取り入れた授業を実施した。	【成果指標】 教員の授業力向上を目指す取り組みの効果を、生徒による授業評価で評価する。	生徒による授業評価で、授業中生徒が探究的な活動する場面があるとの回答が、 A:90%以上 B:85%以上 C:75%以上 D:75%未満	C以下の場合には各教科で指導法を再検討する。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成判断基準	判定基準	備 考
2 生徒の規範意識の向上と生活習慣・学習習慣の定着	① 携帯電話・スマートフォンの使用ルール遵守と1日の使用時間を削減する指導を進める。	生徒指導課 全職員	携帯電話等に伴う課題が多く、SNS利用5ヶ条を知らない生徒もいるので、使用ルールをきちんと守る習慣を身につけさせたい。 また、携帯・スマホ使用が家庭学習時間を奪っている現状があり、昨年度の1人あたりの1日の使用時間が50分であった。今年度は30分以内を目標にしたい。	【成果指標】 ①使用ルールの遵守 自己評価により、達成できたかをみる。 ②使用時間 使用時間の調査から達成できたかをみる。	①生徒の自己評価アンケートから日常的に達成できた割合が A:85%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満 ②生徒の使用時間調査から1人あたりの1日平均使用時間が A:30分以内 B:40分以内 C:50分以内 D:50分より長い	C以下の場合は、指導を見直す。	①年3回(7月・12月・3月)のアンケートを実施する。 ②年5回の調査を実施する。
	② 時間厳守の習慣の確立を目指し、「遅刻0運動」を継続する。	生徒指導課 全職員	継続した取組により年々理由のない遅刻数が減り、授業時のベル着・ベルスタートも確実に定着している。学校生活のあらゆる場面で時間をきちんと守る習慣を更に高いレベルで定着させたい。	【成果指標】 毎週の遅刻集計結果を生徒玄関に掲示し、達成状況を見る。	「遅刻0の日」が年間合計で A:160日以上 B:150日以上 C:140日以上 D:140日未満	C以下の場合は、指導を見直す。	生活委員が毎週末に遅刻集計を行い、結果を掲示する。
	③ 挨拶や服装・交通マナーなど基本的な生活習慣の定着について指導を徹底する。	生徒指導課 全職員	朝の挨拶運動や登校時の指導により挨拶ができる生徒の割合は高い。服装で指導を受ける生徒は、減少しているが十分とは言えない。 また、一部の生徒で交通マナー、自転車の二人乗りで指導を受ける生徒がいる。	【成果指標】 自己評価により、達成状況を見る。	生徒の自己評価アンケートから日常的に達成できた割合が A:85%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	C以下の場合は、指導を見直す。	年3回(7月・12月・3月)アンケートを実施する
	④ 「ICP」の取り組みの意義を理解し、全校生徒が教職員とともに毎日の清掃活動をするともに、学校生活全般において環境美化に努める。	保健厚生課 全職員	ICPの取り組みにより生徒の環境美化に対する意識が向上してきた。評価には清掃の担当場所により差が見られる。ICPの取り組みについて、さらに共通理解が深まるよう班長の打合せ会を開くなどの方策を講じることにより、採点の正確化を図り、環境美化の促進に努めたい。	【成果指標】 自己評価アンケートの集計結果を掲示し、達成状況を振り返る。	生徒の自己評価アンケート(班ごと)から日常の清掃をしっかりとできた割合が A:85%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満	C以下の場合は、取り組みを見直す。	2週ごとに自己評価アンケート(班ごと)を実施する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
3 普通科、総合学科それぞれの特長を活かした教育活動の推進	① 進学希望者及び公務員希望者の進路実現を支援する体制を構築する。(普通科)	3学年 進路指導課	国公立大学64名、私立大学14名、短大専門学校13名、公務員10名、民間就職1名の希望者がいる(普通科)。	学年全体を通して適切な指導が行われ、その成果が顕れた。	年度末進路状況において、 進学希望者の A:90%以上が進路希望を実現した。 B:70%以上が進路希望を実現した。 C:50%以上が進路希望を実現した。 D:50%未満が進路希望を実現した。 公務員希望者の A:50%以上が進路希望を実現した。 B:40%以上が進路希望を実現した。 C:30%以上が進路希望を実現した。 D:30%未満が進路希望を実現した	C以下の場合 は指導体制の見直しを行う。	進学希望者及び公務員希望者の進路実現を支援する体制を構築する。(普通科)
	② 個に応じた進学指導、公務員指導、就職指導を充実させる。(総合学科)	3学年 進路指導課	国公立大学1名、私立大学4名、短大・専門学校12名、公務員5名、就職17名の希望者がいる(総合学科)。	学年全体を通して適切な指導が行われ、その成果が顕れた。	年度末進路状況において、 進学希望者の A:90%以上が進路希望を実現した。 B:70%以上が進路希望を実現した。 C:55%以上が進路希望を実現した。 D:55%未満が進路希望を実現した。 公務員希望者の A:50%以上が進路希望を実現した。 B:40%以上が進路希望を実現した。 C:30%以上が進路希望を実現した。 D:30%未満が進路希望を実現した。 就職希望者の内定が A:年内に100%を得た。 B:1月に100%を得た。 C:2月に100%を得た。 D:3月以降にずれ込んでしまった。	C以下の場合 は指導方法の見直しを行う。	個に応じた進学指導、公務員指導、就職指導を充実させる(総合学科)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 普通科、総合 学科それぞれ の特長を活か した教育活動 の推進	③ 学習意欲を高めるため 検定・資格取得を推進 する。 ・パソコン利用技術検 定2級 ・第二種電気工事士 ・危険物取扱者 等	工業科	昨年は全体の合格率は57.6% だった。	【成果指標】 合格率を指標とする。	合格率が全体の A:60%以上 B:45%以上 C:30%以上 D:30%未満 ※(合格者数)/(受験者数)	C以下の場合 は、学習意欲 喚起の方策を 見直す。	合格状況を調 査する。
	④ 学習意欲喚起のための 方策として、各種検定・ 資格取得を推進する。	商業科	昨年度の合格率は全体で 55.3%で、少し改善した。 簿記検定 39/89 (43.8%) 情報処理検定 54/125(43.2%) 珠算・電卓検定 163/205(79.5%) ビジネス文書検定 166/303(54.8%) 商業経済検定 4/42 (9.5%) 英語検定 50/96 (52.1%) の結果である。	【成果指標】 1年間での資格取得率 の結果と、生徒の取組 状況を見る。	学年及び系列の目標とする各種検定 資格に対する取得率が A:75%以上 B:60%以上 C:50%以上 D:50%未満 ※(合格者数)/(受験者数)	C以下の場合 は、学習意欲 喚起の方策を 見直す。	検定合格状況 を調査する。
	⑤ 一般社会の基準に耐えう る発表態度やマナー、 責任ある態度を身に付 けさせるための発表会を 普通科にも取り入れる。	教務課 全職員	総合学科においては、総合的 な学習の時間を活用した、研 究の成果を発信する能力を身 に付けるための取組が成果を 上げている。	【成果指標】 生徒による自己評価によ り達成状況を見る。	事後アンケートにおいて、発表する力 が身に付いたと実感できた生徒が、 A:70%以上 B:50%以上 C:30%以上 D:30%未満	C以下の場合 は取組を見直 す。	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考	
4 地域の教育力を活かした教育活動を展開し、地域と連携した学校づくりの推進	①	本校が実践する教育活動や学校行事に関する情報発信を積極的に進め、本校に対する地域の理解を深める。	総務課 教務課	学校HPや飯高タイムズ等を中心とした本校の情報発信に対してはある程度の肯定評価を頂いてはいるが、まだまだ十分とは言えない。	【成果指標】 本校の教育活動や学校行事に関する広報活動の実践と取組に対する保護者及び地域代表の評価	学校HPの更新が A:週1回以上 B:2週間に1回以上 C:3週間に1回以上 D:月に1回 できた。 保護者及び地域代表者に対するアンケートの回答が A:広報活動を十分に行っている。 B:まあまあ行っている。 C:あまり行っていない。 D:全く行っていない。	C以下の場合 は取組を見直 す。	積極的にマスコミ を活用した広報 を展開する。
	②	ゲストティーチャーやチームによるフィールドワークを取り入れた課題研究活動を、普通科にも導入する。	教務課 全職員	総合的な学習の時間を活用した、自発的・創造的な学習態度や問題解決の能力を身に付けるための取組が成果を上げている。	【成果指標】 課題研究を進める上でグループごとの、校外との連携の様子を観察する。	校外の講師の招へいや施設見学などの連携を通じた課題研究活動を行った普通科のグループが、 A:70%以上 B:50%以上 C:30%以上 D:30%未満	C以下の場合 は取組を見直 す。	
	③	地元の小学校高学年・中学校を対象に、理科実験授業を学期に1回行い、理科に関する興味・関心を高める。	理科	昨年度は、地元の小学校高学年・中学校を対象に、理科実験授業を1回行った。	【成果指標】 小・中学生の理科に対する興味・関心を引き出すことができた。	実験内容に興味を持ち、自ら理解を深めるための考察や追加実験をしたいと回答する児童・生徒の割合が A:80%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:60%未満		
	④	保護者懇談会への参加を含め、積極的な学校行事への参加をお願いする。	総務課 PTA係	文化祭やPTA総会などのおもだった行事への保護者の参加に偏りがあり、保護者の学校に対する意識に濃淡が認められる。	【成果指標】 保護者懇談会への参加を含めた学校行事への参加回数	会員数410名のうち、保護者懇談会への参加を含め、学校行事への参加回数が3回以上の割合が A:80%(317人)以上 B:60%(238人)以上 C:40%(158人)以上 D:40%未満	C以下の場合 は案内の方法 を見直す。	
	⑤	地域のさまざまな立場の方々に講師を依頼し、平時の授業(地域学Ⅰ、産業社会と人間など)を協同して創り上げる。	総合学科	地域学Ⅰで地域の方々と生徒が関わり合ってきた。また、年に数回、特定の行事の中で、地域の方に講演を行ってもらった。	【成果指標】 地域の方々を講師に招き、授業をおこなった時間数	地域の方々を講師に招き、授業(フィールドワーク)をおこなった時間数が、 A:40時間以上 B:30時間以上 C:20時間以上 D:20時間未満	C以下の場合 は実施方法を 再考する。	

